

第69回国民体育大会

我らかく戦う

期日 平成26年10月12日(日)～10月22日(水)
会場 長崎県長崎市ほか

公益財団法人 北海道体育協会

我 ら か く 戦 う

第69回国民体育大会 No.1

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	5	個人3位、得点90点	福島選手や女子リレーの優勝を含み、走・跳・投それぞれに各選手が活躍し、着実に得点を重ね天皇杯入賞を目指す。	福島千里(100m400m女子リレー)、高平慎士(男子リレー) 増野元太(110mH)、松本彩映(10000mW) 平加有梨奈(走り幅跳び)、北口榛花(やり投げ)	福島千里:日本選手権100m優勝 北口榛花:インターハイやり投げ優勝
サッカー	成年男子	1		格上(JFL所属チームなど)との戦いが予想される中、粘り強くゲームを進める。		十勝勢初、北海道代表で国体出場
	女子	3	団体8位	ふるさと枠の選手を起用することで守備は安定すると思うので、攻撃でどこまで通用するかがカギ。	波佐谷灯子(AS/アリマ) 但野夕稀(ジャパンサッカーカレッジ)	
	少年男子	3	団体3位	コンサドーレ札幌の選手を中心に個としての能力が高い選手が多い。それらの選手がチームの中で機能し、活躍できるようにしながらチームコンセプトを共有して闘ってきたい。	菅大輝(コンサドーレ札幌U-18) 藤村怜(コンサドーレ札幌U-15)	日本クラブユースサッカー選手権 準決勝 コンサドーレ札幌U-18 0-3 三菱養和SCユース インターハイ 2回戦 帯広北高校 0-3 西武台高校(埼玉) インターハイ 1回戦 駒大苫小牧高校 1-2 柳ヶ浦高校(大分)
テニス	成年男子	3	団体8位			原田将来:第69回大会出場、田中裕也:第63~65回大会出場
	成年女子	3	団体8位			
	少年男子	4	団体4位			札幌日大高校 インターハイ団体戦 ベスト8 池添克哉:インターハイ個人戦シングルス ベスト16 全日本ジュニアテニス選手権18才以下シングルス ベスト16 加藤翼:全日本ジュニアテニス選手権16才以下シングルス ベスト16
	少年女子	3	団体8位			
ボート	成年男子・女子	3		8位入賞以上を目指す。		
	少年男子	3		準決勝に進出し、上位のクルーと対等のレースがしたい。		全国選抜大会 予選敗退、山梨インターハイ出場
	少年女子	3		8位入賞以上を目指す。		インターハイ準々決勝進出
ホッケー	成年男子	2	団体5位	対戦相手の福井県は、日本リーグに参加している福井クラブを擁しているため、厳しい戦いになる。失点を10点以内に抑えたい。		
	成年女子	2	団体5位	対戦相手に大きく左右されると思うが、大敗しないよう最善を尽くしたい。	河内佑有子(天理大3年):チームでもスタメンに入っており、活躍を期待。	
	少年男子	2	団体5位、得点20点	対戦相手のスカウティング後になるが、守備主体からのカウンター攻撃を軸としたい。		北海学園札幌高校 山梨インターハイ1回戦敗退 インターハイ1回戦 札幌新陽高校 0-6 小国高校(熊本) 菅原郁恵(少年女子)と大貴(少年男子)が双子。
	少年女子	2	団体5位、得点20点	本戦に出場するチームはどれも強豪のため、失点しないよう守備を堅くし、カウンターからの攻撃を図る。守備面を強化し、本戦に臨む。		
ボクシング	成年男子	4		渡辺、阿部、安川、酒井は若いメンバーであり、波に乗れば各選手が期待以上の活躍が期待できる。	阿部(東農大):前年度成年の部で準優勝。圧倒的なパワーの持ち主。 酒井(東農大):関東リーグ1部の大学に在学。主力として今年度も活躍。	阿部(東農大):前年度、成年男子でライト級準優勝。 酒井(東農大):高校在籍中から5年連続出場。 安川(岩見沢消防):国体出場回数14回目。今年度最後の現役出場。
	少年男子	3	個人8位、得点39.5点	渡辺、斉藤、細野は全員高校総体出場経験者であり、どう戦えば良いかを理解できる選手。	渡辺(室蘭工):今年3月開催の全国選抜大会第3位 細野(札工定):今年3月開催の全国選抜大会準優勝	細野(札工定):全国高校総体では2年連続3位入賞。また、全国選抜大会では世界ユース大会で3位入賞を果たしている選手に勝ち準優勝だった。 渡辺(室蘭工):同校ボクシング部顧問で父親が教員。(親子出場)
バレーボール	成年男子	3	団体7位	上位を狙います。	松田晃、トイード・ケーシー卓	2014年東日本インカレベスト16
	成年女子	2		1年生が多くチームに入っているため、若い力で元気に頑張ります。		
	少年男子	4	団体3位	機動力と守備力が駆使できれば上位進出も可能。	田城広光(とわの森三愛)	田城(とわの森三愛)、戸田(東海第四)、柳町(東海第四)が2大会連続出場。
	少年女子	3		札幌山の手高校の選手を中心にチームを組み、弱いところを補強した。レシーブで拾って橋井、廣瀬の両エースで得点を重ねる展開になれば良い戦いができる。トーナメントを1つは勝って最低でもベスト16に残ることが目標。	橋井友香(札幌山の手) 廣瀬七海(旭川実業)	
体操	成年男子(競技)	2	団体11位	競技方法が5-5-4制となり、ブロック予選もなく選手層が厚くないため、苦戦が予想されるが、予選のミスがなく、きれいで減点の少ない演技をすることによって着実に得点を重ね、少しでも上位を目指していきたい。	磯部司(仙台大学):大学1年生ながら脚力に自信があり、ゆかと跳馬で高い得点を狙うことができる。北海道予選でも優勝し、もっともチーム得点に貢献できる選手。	
	成年女子(競技)	2	団体8位、得点172.80点	競技レベルは低いチームだが、その中でできる秘策を見つけ、出場チームの中で一番ミスのないチームにする。	坂崎凜(北翔大学):1年生ながらインカレ2部で個人総合準優勝。国体5回連続出場。	坂崎凜 5大会連続出場
	少年男子(競技)	1	団体25位	今年度から競技方法が変わったので、最大限ルールを駆使し、ミスのない演技をする。		5名全員国体初出場
	少年女子(競技)	3	団体18位、得点190.00点	今大会のメンバーは、国体経験者が1名、残りは初出場で、5名中2名が高校3年生、3名が中学3年生という若いチームであり、初めての大きな舞台で自分たちの持っている力を発揮できるかが目標となる予選通過のカギになる。	永田朝子(跳馬)、池田唯(段違い平行棒)、堀川華恋(平均台・ゆか)	高校生2名 インターハイ 団体19位 中学生3名 全日本ジュニア大会出場
	少年女子(新体操)	2	団体18位、得点12.10点 個人15位、得点11.20点	若いチームでの大会となるが、道内では力のある選手ばかりである。個人での得点がカギとなるため、逆に今年は楽しみ、それぞれが個性を生かした良い演技ができれば、上位を狙える可能性もある。	西岡慈里、石森葵(北星学園女子高校1年):西岡は昨年、日本代表トライアウトにおいて2次選考まで残った。石森は今年度インターハイ個人代表で出場し32位と健闘。	
バスケットボール	成年男子	3	団体4位、得点70点	身長が低い分、機動力を上げて、過去に北海道が残した準優勝以上の成績を残せるよう頑張りたい。	EBETSU W・B 監督 源藤 均	EBETSU W・B:全日本クラブバスケット選手権6回出場、全日本社会人バスケット選手権大会3回出場 札幌大学:全日本大学バスケットボール選手権28年連続出場
	成年女子	2	団体3位、得点27.5点	初戦を突破し、ベスト4にはコマを進めたい。	野口まゆみ:W1リーグで活躍し、元全日本メンバー 藤原恵美:トヨタ自動車に入社し、W1リーグで活躍	アカシヤクラブ:全国クラブ選手権大会3位 野口まゆみ、渡邊かおりは姉妹。
	少年男子	3	団体5位	厳しいディフェンスから速攻主体で得点を奪う。	内田旦人、大岸智哉	インターハイ 東海第四:ベスト8、駒大苫小牧:2回戦進出
	少年女子	4	団体3位、得点27.5点	一戦一戦を選手一丸となり、オフェンス・ディフェンスを積極的にトライし、自分たちのバスケットスタイルで勝ち進み入賞を果たしたい。	齋藤麻未、佐藤奈々美、塩野絵梨:北海道予選会少女女子の部優秀選手賞 栗林未和(札幌山の手):大型新人センター	栗林未和:H26バスケットボール女子U-18日本代表チーム 第22回目・韓・中ジュニア交流競技会参加選手
レスリング	成年男子	2		ふるさと選手の活躍に期待したい。		
	少年男子	2		グレコ陣の奮起を期待したい。	山本康稀(日大):昨年JOC杯ジュニアと全日本学生選手権、全日本大学選手権を制覇	山本康稀:ワールドカップ代表
セーリング	全種別	3		毎年継続して得点が取れるよう選手9名の少数精鋭で今年は2種目入賞を目指す。	松苗幸希:東京国体 成年女子 SH・SR級 3位、植田望裕	
ウエイトリフティング	成年男子	2				梅本哲平:H24国体 少年の部77kgジャーク優勝 若松慎也:H24国体 少年の部69kgスナッチ、ジャーク共に2位
	少年男子	4		二階堂選手は、全国選抜優勝、インターハイ5位で実力を発揮できれば上位入賞が期待できる。大下、中尾両選手は、入賞ラインを争う戦いとなる。		大下優太郎:H25全国高校選抜大会6位、H26インターハイ10位 二階堂功輝:H25全国高校選抜大会優勝、H26インターハイ5位、2年連続出場 中尾祐大朗:H25全国高校選抜大会9位、H26インターハイ10位
ハンドボール	成年男子	2	団体8位、得点15点	国体で1勝を目標にこれまで活動してきた。チームメイトが道内各地に分かれているため、全員揃っての練習はとても厳しい中、連絡を取り合い戦術やチームとしての意思統一を図ってきた。今大会ではその成果を発揮し、自分たちのカラーである相手に合わせたディフェンスを武器に目標を達成したい。		今回、自分たちのチームが初めて2年連続出場を果たすことができた。チームの平均年齢が年々上がってきているにもかかわらず、全員が走り、全力を尽くしてプレーし、国体本戦への出場権を得ることができた。
	成年女子	2		ふるさと制度を使って道外にいる大学生を含め、走り負けないように個別に練習してきているので、点差を離されることなく積極的に攻めていくような戦いをしたい。若い選手と澤田のコンビネーションプレーで攻める。	小田原、辻、坂口、竹林、安田:ふるさと選手 法領田の得点力	
	少年男子	3	団体5位	準決勝進出を目標としている。少年男子は参加チームが19なので、全国高校総体の3回戦が国体の初戦だと思います。60分間、最後まで集中して試合に臨みます。	小澤基:日本代表U-19に選出され、高校総体でも体格と運動能力を活かして活躍。	全国大会 2回戦敗退
	少年女子	2		インターハイ出場した函館工業の選手を主体に、個人技ある選手を補強した。昨年の国体や全国選抜大会、JOCに出場した選手が多く、この経験を活かして初戦突破を目指す。	佐々木春海(函館工業)	インターハイ 2回戦敗退 佐々木(3年連続出場)、中瀬、高橋、石田、辻、佐藤、村上、大野(2年連続出場)

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
自転車	全種別	2		競技場での練習機会が少ないため、他県と比べて競技力(技術・感覚)が低い位置にあるが、路上練習の成果を最大限に発揮し、入賞を果たしたい。		
ソフトテニス	成年男子	3	団体7位	長年強化してきた成果が、全国規模の大会で徐々に結果として表れ始めた。また、大学選手権で全国上位入賞を果たした選手が出場していて、チームの軸に成長しつつあり、上位入賞を狙える位置にある。	内海大輔	昨年、東日本選手権第3位の内海選手が、インカレにおいてシングルスベスト8入賞。
	成年女子	3	団体8位	濱谷・長内ペアを軸に、全くタイプの違うペアの特徴を活かしたゲーム展開になれば、今年も十分入賞を狙えるチーム。	濱谷杏奈(神戸松陰女子大)	濱谷杏奈(神戸松陰女子大):インカレ ダブルス5位
	少年男子	3	団体8位	初戦が近畿1位の兵庫県であるので、攻撃的な戦いで勝利すれば勢いが出ると思う。	河野斗夢・小柄和輝ペア	小木啓輔・小柄和輝ペア:全日本私学大会個人戦ベスト8 河野斗夢・小柄和輝ペア:千葉インターハイ個人戦ベスト32
	少年女子	4	団体6位	今年は47都道府県フルエントリーとなるため、ベスト8進出まで接戦が予想される。出場選手6選手中、4選手が昨年7位入賞の中心選手のため、経験や実績などからも期待できる。		高橋・福田ペア(札幌龍谷):H26インターハイ個人ベスト16、ハイスクールジャパンカップダブルスベスト8 中谷・長内ペア(札幌龍谷):H26インターハイ個人ベスト16、ハイスクールジャパンカップダブルス3位
卓球	成年男子	4	団体5位	初戦をしっかり勝利して上位を目指す。		
	成年女子	3	団体8位	この数年、ベスト8入賞は果たすもメダルを取れていないので、3位入賞を目標にする。		
	少年男子	3	団体5位	尚志学園の単独チームであり、チームワーク良く戦いたい。		
	少年女子	4	団体3位	優勝を目指すメンバー。	佐藤瞳、伊藤佑里子(札幌大谷)	佐藤瞳:H25インターハイ女子シングルス 2位
軟式野球	成年男子	3		投手を中心に守り抜き、少ないチャンスを生かし一勝必勝。		
相撲	成年男子	3	団体16位	中堅の山本が予選で3勝できれば、決勝トーナメントに進出する可能性が出てくるので期待したい。	白尾聡:日本大学相撲部に在籍中、世界相撲選手権に出場 山本大生:中央大学相撲部準レギュラー 佐藤勇輝:中央大学相撲部前主将	佐藤勇輝と友輝が兄弟。
	少年男子	2	団体16位、個人32位	予選を勝ち残り、決勝トーナメントに進みたい。		
馬術	全種別	4	団体5位、得点4点 個人8位、得点34点	成年男子、女子の馬場馬術は十分に期待を持っている。	総合の楠木、馬場馬術の林・米本 少年団体も全国レベルなので上位入賞が可能。	楠木貴成:2014年全日本総合馬術 第3位 林伸伍:2013年全日本馬場馬術 優勝
フェンシング	成年男子	3		フルレ:3回戦、サーブル:3回戦		
	成年女子	3		フルレ:2回戦、サーブル:3回戦		
	少年男子	2		2回戦		真田涼太(少年男子)と玲菜(成年女子)が兄弟。
	少年女子	2		2回戦		
柔道	成年男子	4	団体3位	本年は、先鋒の大学生を除き、ベテラン選手で構成されたチーム。先鋒で若い力を発揮して1点を先取、試合の流れを作り、次鋒以下ベテラン選手が持ち前の技術力を発揮して失点することなくいずれかが1点を追加する流れで勝ち進み、上位進出を目指します。		
	成年女子	2		一戦一戦集中して戦いたい。		
	少年男子	3	団体5位	飛び抜けた選手がいないのでチームでまとまって戦う。	渡辺大地:全国5位入賞	
	少年女子	4		大将の佐藤選手にいかにも良い形でつなげるか。	佐藤杏香:全国大会入賞多数	佐藤杏香:春 個人優勝、H25インターハイ3位
ソフトボール	成年男子	2	団体5位、得点20点	予選会を経て、現状における北海道最強チームを編成した。また、ふるさと選手2名を加え、練習不足を補いつつ、5位入賞を目指したい。		
	成年女子	3	団体3位、得点44点	下山(投手)を中心に、経験豊富な野手がどこまで守りきれるかがカギ。少ないチャンスをものにし、上位進出を狙う。	下山桃子(日本体育大学)	五十川、丹野、松浦、新居、高谷、下山、竹内:連続出場 インターハイ1回戦敗退
	少年男子	1		持っている力を全て出し切り頑張る。		
	少年女子	4	団体3位、得点44点	上位進出するためには、投手を中心とした守備力を鍛える必要がある。実力がある関東・近畿・九州ブロック代表との対戦が上位進出のカギを握る。粘り強く戦い、少ないチャンスをものにし、上位進出を狙いたい。	廣瀬夏季(とわの森三愛):エースとして苦しい場面も強気で投げる精神面を持っている。丁寧なコントロールが持ち味。	H25インターハイ(福岡) ベスト8 H26全国選抜大会(三重) 優勝
バドミントン	成年男子	4	団体1位	国体選手は3名ともシングルス得意としており、1ダブルス、2シングルの団体戦では非常にチャンスがあると思われる。相手選手との対戦カード次第では充分優勝を狙うことができる。	佐々木翔(トナミ運輸):2014年日本代表選手	佐々木翔:2013年全日本総合 第3位 竹村純:2013年全日本社会人 第5位 島田大輝:2013年全日本学生 第5位
	成年女子	3	団体8位	相手にもよるが、ダブルスでポイントを取らないとかなり厳しい状況になると思われる。3人とも国体経験者になるので、自信を持って国体に臨んで欲しい。		本田・野村ペア:昨年度インカレダブルス ベスト8 本田:東日本学生シングルス3位
	少年男子	4	団体3位	高校生は県によって差があり、男子は特に大きいので、トーナメント次第ではあるが上位入賞を目指したい。	塚本光希、武石優斗	塚本・武石ペア:インターハイ個人対抗ダブルス 第3位 塚本:インターハイ個人対抗シングルス 第3位
	少年女子	3	団体5位	国体・インターハイ・ジュニア選考会の3大会で優勝している大友の勢いと、それを支える3年生ペア中野・久保田の安定感がカギを握る。	大友(帯広大谷)、中野(とわの森三愛)、久保田(とわの森三愛)	中野・久保田ペア:インターハイ団体戦ベスト16・ダブルスベスト16 大友:インターハイ 2回戦敗退
弓道	成年男子	3	団体8位	未知数の力を引き出し、チームワークで戦いたい。		
	成年女子	4	団体3位	経験者2人で新人をカバーして若い力を引き出し、プラスアルファの力を出したい。		
	少年男子	3	団体8位、得点3点	異なる環境に影響を受けることなく平素の力を出し、予選通過果たし上位入賞を目指す。	立脇裕貴:精神面が強く、射が安定している。	
	少年女子	3	団体8位、得点3点	精神の安定、筋力の向上を通して的中率を高めることにより、決勝トーナメント進出・上位を目指したい。		第32回全国高等学校弓道選抜大会出場(予選敗退)
ライフル射撃	全種別	3		成年女子を中心にファイナリストを最低3名出す。	佐藤櫻子:全国大会で常に入賞の常連。	昨年入賞した佐藤友也と櫻子が夫婦。櫻子は2年連続入賞中。
剣道	成年男子	4	団体3位	他県の選手も強豪を揃えているので、安易に勝つことは難しいが、1人1人がベストを尽くせば勝機がある。		安藤(先鋒):H25全日本選手権大会3位、古川は開催県の長崎出身
	成年女子	3		他県の戦力はかなり高いものがあり苦戦が予想される。		吉田(中堅):全国警察大会 準優勝1回、3位入賞1回
	少年男子	4	団体3位	チームとしてはバランスが取れているので、それぞれが能力を出し切れれば勝つ可能性は高い。		高松詩郎(先鋒)と伸彦(大将)が兄弟。
	少年女子	4	団体3位	大将戦まで勝負がもつれ込めれば勝機がある。		伊藤(大将):全国都道府県女子剣道大会(7月) 北海道がベスト8に入賞する原動力になった。 東日本都道府県大会 Bブロック優勝
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体5位、得点12.5点	反則やミスを減らし、ボールをキープし続け、エリア・タイムマネージメントで勝利を目指す。		
	少年男子	3	団体10位	激しくつこいディフェンスでロースコアにもちこみ、一回戦突破を目指す。	舟橋亮将、木津谷元気、モリキ・リード(札幌山の手)	
山岳	成年男子	5	団体5位、得点12点	杉本選手が左肩を故障したが、その治り具合が勝敗を決めるポイントとなる。國谷選手がどこまで経験値を出し切れるかがポイントとなる。	杉本怜:2013ボルダリングワールド・カップ(ミュンヘン大会)優勝	國谷斗馬:民間クライミングジム大会(全国大会) 9位
	成年女子	5	団体1位、得点24点	チームを組んだ最初の年から2連覇しているものの、ここ2年は他県の強豪選手により優勝を逃している。その悔しさをバネに優勝を狙う北海道最強ペアであると思われる。	一安瑛子:2011年山口国体 個人1位 萩原亜咲:2009~2013年 5年連続ボルダリング日本代表	2010千葉国体、2011山口国体 ボルダリング競技優勝 一安瑛子:2011年山口国体 個人1位、5年連続国体出場 萩原亜咲:2004年から11年連続国体出場し全て入賞、うち優勝3回
	少年男子	4	リード 第5位、得点12点 ボルダリング 第5位、得点12点	環境に恵まれ強豪選手の多く関東3県、岐阜、山口、鳥取といった強豪チームと上位を争うことになるだろう。北海道の両名は普段の力を出し切れれば充分上位を勝ち取る力を持っているので、メンタルを強く保って戦いたい。		JMAコース日本選手権大会(H26年3月) 松浦6位、武者10位 JOCジュニアオリンピックカップ大会(H26年8月) 武者9位、松浦14位
	少年女子	3	団体7位、得点6点	北海道は年間を通して有望なユースを集め、長いスパンでの強化に近年取り組んでいて、少女女子の2名もユース強化チームの一員であり、コンビネーションなども含め国体を見据えたトレーニングを行っているので入賞を期待したい。	佐々木里穂:3年連続国体出場 菅原未沙	佐々木里穂:第67回岐阜国体リード3位、第68回東京国体ボルダリング 4位 菅原未沙:第17回JOCジュニアオリンピックカップユースB 17位

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
カヌー	スラローム・ワイルドウォーター	3			山岡洋貴:近年入賞しているので、今回も入賞を期待している。	
	スプリント	2		今回も決勝まで残ることを期待している。		JK - 2、JC - 1、JWK - 1、JWK - 2に参加する選手がインターハイ出場
アーチェリー	全種別	3		各種別とも入賞できる力があるので、天皇杯ポイントを狙う。		松原孝臣(成年男子) 連続出場
空手道	全種別	4		女子皇后杯5位入賞を目指していきたい。	岩本衣美里(成年女子形):世界空手道連盟主催のプレミアリーグに参戦 住友優里(少年女子形):インターハイ5位、春の選抜で4位入賞。	
銃剣道	成年男子	2	団体8位	団体戦があるので、チームの勝利を最優先とし一戦一戦を戦いたい。		第57回全日本銃剣道優勝大会 準優勝
	少年男子	4	団体3位、得点18点	一戦必勝に徹し、上位入賞を目指す。		先鋒:小林凌太 3年連続出場、東京国体2位 中堅:福田侑麻 2年連続出場、東京国体2位 大将:福田龍喜 中堅福田と兄弟
クレー射撃	成年男子	4	団体8位、個人3位	全員、体調及び精神面がクリアできれば好成績が可能。	スキート:佐藤堅司、田畑篤 トラップ:星野明浩	
なぎなた	成年女子	3	団体8位	演技競技は基本を忠実にすることが勝敗につながる。1本の打ち、応じを確実にすることが勝因になる。		
	少年女子	4	団体8位	普段通りの試合ができれば8位入賞は確実。他県との試合経験が少ないので競い合う場面をどう対処するかがポイント。		
ボウリング	成年男子	3	団体8位、得点3点 個人8位、得点1点	後半戦で高得点のゲームを何ゲーム続けるかで勝敗が決まる。	保木慎吾:後半戦での戦いに期待ができる選手	
	成年女子	4	団体5位、得点24点 個人5位・7位 得点30点	ナショナルメンバーの松田悠、福園祐理恵の2選手を中心に個人戦、団体戦とも後の2選手がうまく引き上げられるような戦いになるよう、チームワークとメンタル面でのサポートを重点においた戦いを心掛けたい。	松田悠、保木絵理	松田、保木 7連続出場(保木は夫婦として2年連続出場) 福園 5年連続出場
	少年男子	3	団体8位・得点3点	息を合わせ確実なボウリングをして団体戦入賞して欲しい。		日野 出場2回目
	少年女子	3		個人戦では他県の高校上級生には及ばないことから、集中力を切らさずチームワークを持って団体戦入賞を目指す。		工藤ひかる H26全国中学選手権大会 7位入賞 菅原千愛 H26全国高校選手権大会 17位
ゴルフ	成年男子	5	団体1位、得点24点、個人1位	個人の実力を発揮できれば、個人・チーム共に1位の可能性が非常に高い。	佐藤太地(日本代表)、小西奨太	小西奨太:日本学生ゴルフ選手権 優勝、4年連続出場
	女子	4	団体8位	3人とも高校1年生。小祝さくらを中心に勢いに乗って戦いたい。		小祝さくら:日本女子アマ ベスト32、日本ジュニア29位タイ
	少年男子	5	団体1位、個人1位	全国の各チームからも注目される戦いになると思われる。チーム総合力があがれば優勝も狙える。	片岡尚之	片岡尚之:日本アマチュアゴルフ選手権 ベスト8、日本ジュニアゴルフ選手権 優勝
高校野球(軟式)		3	団体3位	バッテリーを中心に守備から流れを掴み、自慢の攻撃力で勝ち進みたい。	未岡佑基(捕手):守備、攻撃、精神的なチームの柱	第59回全国高等学校軟式野球大会 一回戦敗退
高校野球(硬式)		4	団体3位	バッテリーを中心に守り抜く野球を展開し、数少ないチャンスを確実にものにしたい。	西嶋亮太(投手)	全国高等学校野球選手権大会 2回戦進出、責任教師の大脳は第48回大会に出場。
トライアスロン	全種別	3		男子初出場で大学院に通う若手選手、得意種目はないものの、3種目のバランスは取れている。 女子も初出場、与えられたチャンスを生かすと意気込んでいる。		